

はじめに

私たちのふるさと栃木県は、清らかな水や美しい緑に満ちあふれ、雄大な山並みと広く豊かな大地に恵まれています。この自然豊かな美しい“とちぎ”の環境を将来の世代にしっかりと引き継いでいくことは、現代に生きる私たちの願いであり、責務でもあります。

しかし、環境を巡る問題は多岐に渡っています。世界の気温は、20世紀前半から上昇傾向にあり、地球温暖化に起因する地球規模での影響が現れ、異常気象が私たちの生活そのものを脅かすようになってきています。また、生物多様性の確保や、原子力発電所事故に伴う放射性物質への対策、さらにはエネルギー問題など、様々な課題の克服にこれまでも増して積極的に取り組まなければなりません。



こうした中、県は、平成23年3月に策定した「栃木県環境基本計画」をはじめ、「生物多様性とちぎ戦略」、「栃木県地球温暖化対策実行計画」、「栃木県廃棄物処理計画」などと連携して、「とちぎ環境立県戦略」や栃木県重点戦略「新とちぎ元気プラン」に掲げるとちぎの目指すべき将来像の実現に向けて、各種施策を積極的に展開してきました。

また、これらに加えて、平成26年3月に「とちぎエネルギー戦略」を策定し、省エネルギー対策や再生可能エネルギーの普及拡大を進めるとともに、放射能対策や、県産農林産物等の安全・安心の確保に積極的に取り組んでいます。

今、森林に恵まれた中山間や農村地域は、地域の存続をも脅かしかねない人口減少という課題に直面しています。環境の保全と地域の活性化は車の両輪のようなもので、地域が成り立たないと、ふるさとの環境を将来に引き継いでいくことはできません。これからは、これまでの施策に加え、地域の存続・活性化という視点を加味しながら、県民の皆様と一丸となって、環境を守り育てていくことが大切です。

この「栃木県環境白書」は、本県の環境の状況や平成26年度に県が実施した環境保全に関する施策等についてまとめたものです。本書を通して、県民の皆様は環境問題への理解を深めていただくとともに、「地球と人にやさしい“エコとちぎ”」の実現に向けた「行動」の一助となれば幸いです。

平成27年9月

栃木県知事

福田 富一